

令和4年度こうとう学びスタンダード定着度調査 結果報告書について

1 調査の概要

(1) 目的

- こどもに確実に身に付けさせたい内容を明らかにし、すべての学校でその定着を目指す「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）」の定着状況を把握する。
- 各校でスタンダードを確実に推進し、さらにその内容の定着を徹底させるための授業改善を図る。

(2) 調査対象 ※特別支援学級（固定）の児童生徒はそれぞれの状況に応じて実施

- 小学校及び義務教育学校（前期） 2～6年生児童 20,050人実施
- 中学校及び義務教育学校（後期） 全学年生徒 7,953人実施

(3) 調査方法・内容

- 選択、短答及びアンケート形式による。
- 小学校及び義務教育学校（前期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・算数 ・英語
- 中学校及び義務教育学校（後期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・数学 ・英語

(4) 調査実施日

- 令和4年4月27日（水）

2 結果の概要 （正答率別正答率・項目別正答率の2種類のグラフと結果の考察）

(1) 小学校及び義務教育学校（前期）

- スタンダード定着度 区平均
基礎・基本的な内容の定着を図る「スタンダード問題」では、国語、算数、英語ともに全ての学年で70%を超える定着度が見られた。中でも、国語2・3年、算数2・3・4年、英語4・5・6年では、80%を超える定着度が見られた。
- 英語スタンダード
4・5・6年において、正答率が約90%であった。スタンダードの項目にある「英語でかんたんな自己紹介ができますか」という質問項目については、肯定的に回答した児童の割合が4年生約85.5%、5年生が約86.5%、6年生が91.7%となっている。

(2) 中学校及び義務教育学校（後期）

- スタンダード定着度 区平均
基礎・基本的な内容の定着を図る「スタンダード問題」では、国語、算数、英語ともに全ての学年で約60%を超える定着度が見られた。中でも、国語1・2年、数学1・2年では70%を超え、英語1年では約90%の定着度が見られた。
- 英語スタンダード
「英語で積極的にコミュニケーションをしていますか」や「英語で挨拶や自己紹介ができますか」という質問項目について、肯定的に回答している生徒の英語の正答率は、否定的に回答している生徒の正答率よりも高い定着度が見られた。

3 定着度調査結果を生かした今後の改善

- (1) 主体的な学び、習得した知識の活用を促す授業改善
- (2) タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現
- (3) スタンダード強化講師の効果的な活用
- (4) 個に応じた支援の充実